(仮訳)

プレス・リリース

2025年5月12日

中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループは、バーゼルⅢの実施への期待を再確認し、極端な気象事象の金融面の影響に関する作業について議論

- GHOS は、バーゼルⅢを完全かつ統合的な形で、かつ可能な限り早期に実施することへの期待を全会一致で再確認。
- バーゼル委は、各法域が検討するための気候関連金融リスクに関する任意の開示枠組みを公表する。
- GHOS は、極端な気象事象が金融リスクに及ぼす影響について、さらなる分析を優先することに合意。

バーゼル銀行監督委員会（以下、「バーゼル委」）の上位機関である中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ（以下、「GHOS」）は、2025年5月12日に会合を開催した。

バーゼルⅢの実施

GHOS は、2017年に[最終化](#)された未実施のバーゼルⅢ改革について、その実施状況をストックテイクした。メンバー法域は、実施について、良い進展を続けてきた。約70%のメンバー法域は、現在基準を実施済みであるか、まもなく実施する予定である。

GHOS メンバーは、バーゼルⅢの枠組みの全ての要素を完全かつ統合的な形で、かつ可能な限り早期に実施することへの期待を全会一致で再確認した。ここ数年の金融市場への一連のショックは、健全な国際規制枠組みを整備することの重要性を強調した。GHOS は、バーゼル委に対して、バーゼルⅢの完全かつ統合的な形での実施を引き続きモニタリングし、評価するよう指示した。

GHOS はまた、バーゼル委で実施中の、流動性リスクや銀行勘定の金利リスク（IRRBB）など、バーゼル枠組みの特定の要素が[2023年の銀行を巡る混乱](#)の際に意図したとおりに機能したか否かを評価する分析・監督作業を確認した。

気候関連金融リスク

GHOS メンバーは、バーゼル委が[提案](#)した気候関連金融リスクに関する第3の柱の開示枠組みについて議論した。バーゼル委は、各法域が検討するための任意の開示枠組みを公表する。

GHOS はまた、気候関連金融リスクに関するバーゼル委のより広範な作業について議論した。GHOS はバーゼル委に対して、極端な気象事象が金融リスクに及ぼす影響の分析作業を優先するよう指示した。